

ント…119	
4. 図表の作成と効果的提示法…	120
表作成の注意点…120／図版作成の注意点…122／図表の提示法…123／図表の作成と提示に関するまとめ…127	
5. ファイル管理やバックアップの重要性…	128
ファイル管理やバックアップの意義…128／ファイル管理の基本としてのファイル名称…128／ファイルの順番…130／ファイルとフォルダ…130／データのバックアップ…133／ファイル管理とバックアップに関するまとめ…135	
6. 論文の意義と構成法…	136
入門的論文としての卒業論文…136／論文の指導…136／論文の構成法…139／参考文献の提示法…142／その他の提示法…144／文章に関する注意…145	
7. パソコンで論文やレポートを作成するときの基本操作…	146
パソコンの文字入力…146／ローマ字入力の勧め…147／ローマ字入力の方法…149／漢字への変換…150	
8. 注釈の効果的使用法…	151
注釈説明の必要性…151／注釈の働きとその重要性…152／注釈の方法…152／注釈の用法…153／自動注釈機能…154	
9. むすび…	154

#### 第4章 電子メールの効果的利用法

宮内佐夜香 159

1. コミュニケーションツールとしての利用…	160
電子メール利用のパターン…160／複数メールアドレスの管理…167／送信先への配慮…175	
2. 複数の相手とのコミュニケーション…	179
同報メールの利用…179／メーリングリストへの参加…184	
3. メールの効率的な整理方法…	189
メールの分類…190／自動振り分け設定…191／送信メールの管理…193	
4. メールをコーパス化する方法…	193
言語データとしての特徴…194／アプリケーションソフトの検索機能の利用…197／電子メールのテキストデータ化…199／調査方法の具体例…204	

## 第1章

荻野 綱男

### コンピュータ概論

#### 1. はじめに

第1章「コンピュータ概論」では、言語研究者（特に日本語研究者）がコンピュータに関して知っておくべき基礎的知識を解説する。

コンピュータには、いろいろな種類のものがあり、使う目的もさまざまであるので、その全体を述べようとする漠然としてしまうこともある。

しかし、言語研究用、特に日本語研究用ということで考えれば、おのずとこんな感じのものというイメージは描けるものである。ここでは、そのような意味での「コンピュータ」について扱う。したがって、言語研究用でないコンピュータの利用法についてはすべて省略する。

また、ここで解説してある諸事項は、講座全体を理解するために役立つように心がけた。この講座はさまざまなレベルの人が読むことが想定される。コンピュータの専門家もいるかもしれないが、多くの読者は日本語学を中心とした言語研究に関わる人であろう。そのような人がコンピュータを使うに当たって心がけておかなければならない事項を、まとめて述べることにする。

ここでの知識は、従来知られていることの概観的な面も強いが、コンピュータにこれから触る人にも、ある程度コンピュータに慣れ親しんできている人にも、知識の整理として読んでもらえるものを目指した。

## 2. コンピュータ

### 2.1 コンピュータは計算機ではない？

コンピュータ（computer）というと、計算機、つまり計算する機械ととらえる人が多い。しかし、これはどちらかというと誤解に近い。計算機といふと、電卓（電子式卓上計算機）のことを思い浮かべる人が多いだろう。数字キーや計算記号などを押して文字通り計算する機械である。しかし、現代のコンピュータは、計算のために使われているのではない。一部の分野では、数値計算のために使われているが、それはむしろマイナーな使い方である（第5巻第4章、第8巻第3章、第8巻第5章では、文字通り「計算」を中心にして扱っている）。

コンピュータは電子的データ処理システムのことである。昔は、これを意味する EDPS (Electronic Data Processing System) ということばがあったのだが、最近はそういう呼び方を耳にすることは少なくなった。しかし、コンピュータの本質はまさにここにある。コンピュータは「電子的にデータを処理するシステム」なのである。

「電子的に」ということは、類義語で説明すると「デジタルで」ということになる。データには、そのままでコンピュータが処理できるものと処理できないものがある。処理できるものが「電子化されたデジタルデータ」である。コンピュータで処理できないタイプのデータをコンピュータで処理するためには、一度電子化しなければならない。

「データ処理」には、いくつかの側面がある。ここではそれを大きく5つに分けて考えていく。入力・出力・蓄積・検索・変換である。「計算」は、このうちの「変換」の一部に該当する。以下、個別に見ていく。

「入力」は、人間の側から見ると、「データをコンピュータに渡すこと」である。コンピュータの側から見ると「データを読む」ことである。コンピュータの外の世界では、データはさまざまな形をしている。それらを、コンピュータの内部で扱えるような形に直すことが「入力」である。言語研究では、一般に、キーボードから文字の形でデータを入力する場合が多いが、

さまざまな「読み取り装置」を使って入力することもある。声の入力ではマイクを使うが、これも、音声というアナログデータを電圧の変化というデジタルデータに直す装置と考えれば入力装置といえよう（厳密にいふと、電圧の変化はアナログデータであり、それを A-D 変換してはじめてデジタルデータになる）。マウスも入力装置である。

「出力」は、人間の側から見ると、コンピュータからデータ（処理結果）を受け取ることである。コンピュータの側から見ると「データを書き出す」ことである。コンピュータの内部にある電子化データを人間が扱える形に直して見せることが「出力」である。コンピュータにつながったディスプレイ上に表示したり、プリンタで印字したりすることが出力である。

「蓄積」は、コンピュータがデータを内部に保存することである。蓄積するためには記憶装置が必要である。主記憶（メインメモリ）は1番高速にアクセスできる記憶装置である。その外側には、ハードディスクや USB メモリ、DVD-Rなどの光ディスクなど、コストや速度や容量が異なるさまざまなメディアがある。

「検索」は、コンピュータの内部に蓄積したデータを、さまざまな条件に基づいて探すことである。コンピュータに入力したデータは、蓄積するだけでは活用できない。柔軟な検索で条件に当てはまるデータを取り出すことによって、きわめて有効な使い方が広がる。その意味で「検索」はコンピュータの基本的な機能であるといってよい。

「変換」は、コンピュータの内部に蓄積したデータの形式を変えることである。コンピュータは、その内部で既存のデータを組み合わせ、新しいデータを作り出すことができる。形を変えることで、他の用途にも使えるようになり、応用範囲が広がる効果がある。「計算」は、いくつかの数値データに対して加減乗除などの変換を加え、その結果を取り出すことであるから、「変換」の一種と見られる。

このようにして、コンピュータは、外部にあったデータを内部に取り込み、保存し、変換し、その結果を外部に出すことができる。そのプロセス全体が「データ処理」である。言語に関するデータを扱えば、これは「言語データ